Vol. 72-3 (1996)

本会記事

■第1回核融合エネルギー連合講演会

核融合エネルギー連合講演会は1995年12月4・5日の2日にわたって京都・リサーチパークで行われた．第1回の本講演会は，核融合研究の基礎から応用にわたって一段の発展を期するのみでなく，大学，国公立の研究所，および産業界の若手の研究者の相互理解と，将来にわたって一層の連携を深める役割を果たせるようにも計画された．

講演会への出席者数は374名であり，招待講演者や現地実行委員会の会員を含めると約400名に達した．

プログラムの内容を数字にすると，特別招待講演は1件，招待講演は12件，ポスターセッションへの投稿者数は250名，パネルディスカッションでのパネラーとコメンターは13名であった．

参加者数を所属機関別で分類すると，日本原子力研究所は45名で，核融合科学研究所からは43名，京都大学26名，名古屋大学26名，東京大学21名，九州大学21名，東芝15名，東北大学，東京工業大学および三菱電機は各10名，川崎重工，日立製作所は各8名，電子技術総合研究所6名，岡山大学，三菱重工，電力中央研究所，放射線医学総合研究所および北海道大学は各々4名，金属材料研究所，住友重機械工業，神奈川工科大学，長岡科学技術大学，姫路工業大学，富山大学，石川島播磨，東京理科大学，広島大学，および日新電機では各々3名，茨城大学，京都工芸繊維大学，筑波大学，日本酸素および関西電力では各2名，CPI-Eimocdiv, アロカ，キイレス工業，レーザー技術総合研究所，茨城県，クリハラント，間組，竹中工務店，関電工，九州東海大学，豊川物研，体質研究会，産業医科大学，秋田大学，住友電気工業，助川電気工業，昭和電線，原子燃料工業，大倉電気，東海大学，能開大学，神戸製鋼所，清水建設，大阪真空機器製作所，大阪府立大学，大島忠設計，日本原子力産業会議，日立エンジニアリング，日立NE, 日立研究所，日揮，浜松ホトニクス，富山県立大学，富士電気，日本ガイシ，丸文，未記入は各1名であった．

核融合研究は息の長い研究であることから，特に若手の研究者の育成が必須である．この機会に他研究分野間での若手の研究者の交流を行えるように［若手研究者のセッション］を計画した．さらに若手研究者が発表するポスターセッションに対して「優秀賞」でその功を表彰した．優秀賞の件数は予定を上回って17件であった．表彰された方々の氏名と題名は次のとおりである．

（茨城大・理　一政祐輔）

- 福田武司（原研）JT-60におけるHモード遷移加熱閾値の研究
- 浜田貴照（京大ヘリオトロン）ヘリオトロンEにおける直流インピーダンス法による真空磁気面計測
- 榊田　創（核融合研）JIPP T-IIUトカマクにおけるOn-axisおよびOff-axisペレット入射時の溶発機構
- 内一哲也（東大工）高温超電導体のトカマク式核融合炉への応用
- 河口一郎（川重）銅合金とステンレス鋼のHIP接合によるブランケット・第一壁構造体部分モデルの製作
- 井上徳之（核融合研）LHDプラズマ真空容器の設計
- 金谷尚志（名大工）置換クロマトグラフィLi同位体分離
- 芝　清之（原研）中性子照射によるF82H鋼の機械的性質の変化
- 土屋　文（名大工）BeおよびBeOからのイオン注入重水素の加熱再放出
- 細貝いずみ（東芝）低放射化真空容器材料の水素吸収特性
- 蓮沼俊勝（東北大工）重水素イオン注入下におけるMo薄膜中の重水素輸送
- 近藤潤次（東工大原子炉研）電磁力平衡コイルを用いたパルス超強磁場トカマクの実証装置
- 重森啓介（阪大レーザー研）レーザープラズマにおける流体不安定性の最近の実験結果
- 高橋栄一（電総研）短パルスストークス光の生成とKrFレーザー生成プラズマの計測
- 本多琢郎（日立）核融合実験炉のプラズマ異常時の過渡応答
- 大槻伸行（東工大原子炉研）直流アーク放電プラズマによるNeの同位体分離
- 横山須美（原研）カナダにおけるトリチウムガス野外連続放出実験(1)空気及び土壌水分中トリチウム温度の時間変化